

令和2年度 自己評価表

松山南高等学校（砥部分校）

学校番号 21

教育方針	国家社会の有為な形成者として、広く世界的視野に立ち、新しい文化の創造と発展に寄与する若人の育成を期する。	重点目標	さわやかな目・豊かな心・確かな手を育てる 夢を育み、志高く個性を伸ばす教育の推進 －生徒一人一人を大切にしたい指導の実践－
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
学 習 指 導	教科指導の充実	授業相互参観実施への環境整備。 生徒アンケートの回答「授業内容がよく分かる・分かる」:90%以上。 A:90以上 B:80～89 C:70～79 D:60～69 E:59以下	A	今年度は学校訪問研修が実施されたこともあり、各教科担当者間で、授業内容の検討・意見交換等が十分に行われた。生徒アンケートで、96%の生徒が「授業内容がよく分かる・分かる」という回答をした。目標の90%を上回ることができた。	次年度も、90%以上の生徒から「授業内容がよく分かる・分かる」という評価をされるよう、分かる授業の実現に向けて、相互参観を含めた研究の機会を、日頃から設けたい。
	デザイン技術の習得	校外展への応募を増やし、 <u>校外展入賞70点以上。</u> A:70以上 B:60～69 C:50～59 D:40～49 E:39以下 全国規模の公募に積極的に出品し、入選・入賞。 デザイン専門科目での基礎・基本を重視する。 <u>外部依頼などの実践的なデザインワークに活用できるスキルを身に付ける。</u>	B	コロナ感染症の影響によって校外展の出品数が減少し、入賞数は60点と昨年より減少した。ただ内容を見てみると、高校生国際美術展佳作、明るい選挙啓発ポスター全国入賞、高文祭美術・工芸部門での優秀賞(来年度の全国総文祭に出品)など、全国規模の公募展等での成果が多くみられた。また、秋季県展については例年と同等の入選率、入賞者数を維持することができた。 休校による授業時間減で、基礎・基本の習得について心配されたが、夏休み以降の計画の見直しにより、時間減を補うような効果的な指導が実践できた。外部依頼については、コロナ感染症の影響はあったが、地域に貢献する取組ができた。	年度当初の休校は、実技教科の指導には特に1年生に大きなマイナス要因であった。来年度についても引き続き感染症の影響が予想されることから、校外展への応募についてはより効果的な指導法を研究していく必要を感じる。生徒のモチベーションを上げることができる指導力をデザイン科教員全員で工夫をしていきたい。 基礎・基本の習得については、デザイン科会で、授業内容を科目同士で有機的に連動できる研究をするとともに、「基礎・基本とは何か」という議論もするべきだと考える。外部依頼については、継続して積極的に対応していきたい。
	生徒指導	端正な身だしなみとさわやかな挨拶の励行を通して、「地域の範となる砥部分校生」を育成する。 欠席者、遅刻者数を減少させる。 1か年皆勤者率:35%以上。A:35%以上 B:26～35 C:17～26 D:11～17 E:10%以下	A	進んで挨拶ができるようになっている。身だしなみも状況に応じた服装を心がけるようになった。 欠席者、遅刻者数ともに、昨年度より増加したが、皆勤者は23.2%であり、昨年と比較すると、改善傾向が見られる。	引き続き、日頃からの言葉掛けを増やし、自ら気づき、挨拶や身だしなみが整えられるよう、マナーの向上を図っていく。 生徒一人ひとりの状況を把握し、教員間で情報共有しながら粘り強く指導を続ける。生徒が安心して学べる環境を確保する。
	交通安全指導の充実	交通法規の遵守と危険を察知する態度を育成する。	A	校門指導や通学指導を通して、自転車ヘルメット着用、右側通行の定着ができた。自動車・自転車との軽微な接触事故が起こっている。	生徒会等の呼びかけを通して、ヘルメット着用、自転車保険加入、安全走行の徹底を図るとともに、ゆとりを持った登下校に努めさせ、交通事故ゼロを目指す。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	進学指導の充実	美大等の上級学校へ進学し、高いスキルを身に付ける意識を育てる。 美大等を中心に志望する大学等への進学を実現する。	A	推薦・総合型選抜に関しては、ほぼ全員が合格した。一般学部(歴史文化遺産)にも2名合格し、進路の幅が広がった。共通テスト対策を含め、学科・実技指導が充実し、成果を上げることができた。	県外での講習会参加が困難な中、分校独自の実技指導カリキュラムを明文化し、マニュアル作成に努めたい。
		進路ガイダンス等に多く参加させるとともに、実技や教科の補習を充実させ、進路目標を確立させる。	B	コロナ感染症の影響で校外ガイダンスには参加できなかった。校内ガイダンスは初めて愛媛専門学校協会に依頼し実施することができた。生徒は熱心に意欲的に参加し、進路目標を持つ有効な取組となった。	オンライン説明会の計画的な導入を進め、学校行事の中で計画的に実施したい。
	就職指導の充実	就職講座を継続的に実施することにより、職業観を育成する。 就職希望者全員の就職を実現する。	A	当初からの就職希望者については、新規事業所を2つ開拓できた。また、早い時期にハローワーク訪問を実施し、生徒の職業観の醸成に繋げることができた。	オンライン就職講座の活用・リモートワークの研究・新規事業所開拓に努めたい。
豊かな心の育成	人権教育の充実	人権を尊重した環境作りといじめを防止する集団を作る。	B	ホームルーム活動や悩み等アンケートを通じて、いじめは絶対に許されないということを確認させた。コロナ感染症で生じた誹謗中傷事例を紹介し、SNSの利用の仕方全般について注意するように促した。	いじめSTOPフォーラムなどの研修会に積極的に参加し、研修内容を全校生徒と共有したり、保護者に啓発するような活動を行っていききたい。
	自尊意識の育成	面談や制作活動、学校行事等を通して、自尊意識を高め、社会性を育てる。	B	ホームルーム担任を中心に、時機を得た面談を行った。コロナ禍で制限はあったが、工夫をして制作活動や学校行事に取り組み、達成感や自己有用感を高めることができた。	引き続き生徒一人ひとりと丁寧に向き合っていくことにより、自己肯定感を高めさせ、困難に立ち向かっていくことのできる生徒の育成を目指す。
	心身共に健康で人間性豊かな生徒の育成	「オール松山南高」関連行事への全生徒の参加を図る。 「オール松山南高」の意義を理解し、主体的な参加を図る。	C	「オール松山南高」関連行事については、コロナ感染症の影響があったが、分校陶芸部と本校のSSH研究班で砥部焼の釉薬の共同研究を行い成果を上げることができた。また、1年生については今年の分校文化祭での本校生の発表や芸術文化発表会、共同研究等について紹介し、「オール松山南高」の意義を理解することができた。	「オール松山南高」関連行事が再開されれば、できるだけ多くの生徒の参加・交流を図りたい。 「オール松山南高」の意義を理解させ、主体的な参加を促す。
開かれた学校づくり	保護者との連携強化	PTA活動への参加率を高める。 休校等への対応として、電話連絡やホームページ等での連絡など、臨機応変に緊密な連携をとる。	B	コロナ感染症の影響で、PTA活動も中止になったものも多かったが、可能な限り実施し、参加もある程度あった。休校等への対応として、電話連絡やホームページ等での連絡など臨機応変に対応できた。	PTA活動が再開されれば例年のPTA行事を実施し、多くの参加を募りたい。 引き続き電話連絡やホームページ等での連絡など、保護者との緊密な連携を図る。
	地域貢献の推進	地元砥部町及び地域との連携・交流による制作活動年間5件以上。 A:5件以上 B:4件 C:2~3件 D:1~2件 E::0~1件	A	地元砥部町及び地域との連携・交流については、コロナ感染症の影響で例年のように実施できなかったが、自宅待機に対応した活動など5件の制作活動ができた。	例年の教育活動が再開されれば、地元砥部町及び地域との連携・交流による制作活動に意欲的に取り組みたい。
	広報活動の改善・充実	ホームページ1日200アクセス数への増加を図る。 A:200以上 B:170~200 C:140~170 D:101~140 E:100以下 「PTA便り」を充実させる。	A	休校等の影響で、ホームページへのアクセス数は1日300アクセスを上回った。 「PTA便り」を引き続き充実させた。	引き続きホームページの更新・充実を図り、アクセス数を増やす。 引き続き「PTA便り」を充実させる。
業務改善	適切な勤務時間	教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。業務の効率化と時間の有効活用を図る。	B	ICTの活用により、業務の効率化を図ることができた。また、会議の精選や行事の見直しなどにより、時間の有効活用を図ることができた。	会議の効率的な運営やノー残業デーの設定など、時間を意識した働き方の意識の向上に取り組みたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。